

民生福祉常任委員会会議記録

1. 日 時	令和2年 8月11日
2. 場 所	議員協議会室
3. 出席議員	向井千尋、上田英樹、前田えり子、かんなん芳治、河南克典、小島政行、森本富夫
4. 市部局	○保健福祉部 ○市民生活部
5. 会議に付した事件	議案第58号 令和2年度丹波篠山市一般会計補正予算（第7号） 議案第59号 令和2年度丹波篠山市国民健康保険特別会計補正予算（第1号）
開会	
向井座長 挨拶	
○保健福祉部	
日程第1、議案第58号 令和2年度丹波篠山市一般会計補正予算（第7号）	
■健康課より補正予算書に基づき説明	
	＜主な質疑応答等＞
かんなん委員	衛生費に関し、市医師会補助金について、オンライン会議に係る備品購入の内容について説明をお願いします。
保健福祉部	市医師会の運営委員会では、会議室で会議を行っていますが、リスク管理の必要性から、オンライン会議に伴うモニターやスピーカー、プロジェクターを整備するものです。また、今後市で胃カメラ検診を導入しますが、そのときの読影会等も、兵庫医大の医師に来ていただかなくても、オンライン上で会議ができるシステムです。
かんなん委員	オンライン診療については考えていないのでしょうか。
保健福祉部	医師会の先生方の話では、対面で医師が診察するということが基本で、今のところは考えていないということでした。一部の市内医療機関においてはされていますが、医師会として進めるとい方向にはないと聞いています。

前田委員	P C R 検査機器の導入について、現状市内 1 カ所にしかありませんが、一般の診療所に設置されることになるのでしょうか。
保健福祉部	現在 P C R 検査のできる帰国者・接触者外来の病院に導入しようと考えています。非常に検査件数が多くなってきているなか、現状の外注では 2、3 日あるいは、それ以上かかっていますが、2、3 時間で判定ができることとなります。素早い診断により重症化防止、そして市民の不安解消につながると考えています。
河南委員	今後もこの 1 カ所に対応していく考えですか。
保健福祉部	かかりつけの医師や保健師の判断に基づく行政検査として実施する場所としては 1 カ所になりますが、医療機関の検査体制が刻一刻と変わっているなか、行政検査ではないものについては、今後、市医師会において、拡大いただける可能性もあると考えています。
河南委員	行政検査の前段の検査については、一般の病院でもできるということですか。
保健福祉部	行政検査として、P C R 検査が行われているところは現状 1 カ所ですが、今後、検査体制は拡充されていくものと思いますので、かかりつけ医が検査できる体制がとれるかもしれません。しかしながら、現状はそうしたものはなく、P C R 検査にまでは、なかなか至らないものかと思えます。
河南委員	今回の補正によって、そうした体制にまでは及ばないという理解でいいですか。
保健福祉部	そのとおりです。
河南委員	防護服について、200 着という数量で対応できるのですか。使い捨てのものであれば、すぐに 200 着ぐらい達するのではないかと思います。
保健福祉部	この防護服は、感染予防のためのゴーグルとグローブと服が、全て一式揃っているものであり、非常に感染防止の効果の高いものになっています。医師会からは、市の 200 着だけでは足りず、国・県の補助分と合わせて、ようやく何とか賄える状況と聞いています。今後、不足する場合には、補正予算での対応も検討したいと考えています。
河南委員	この防護服は使い捨てになるのですか。
保健福祉部	そのとおりです。
小島委員	購入しようとしている P C R 検査機器は、特別な症状もない普通の人を受けたいとって受けることができるものではなく、あくまでも、行政検査として行われる P C R 検査の機器であるということによろしいですか。
保健福祉部	行政検査に係る P C R 検査ということになります。少し心配だからという理由で受けるものではなく、必ずかかりつけの医師か、保健所を通

して受けるものになります。症状のない方でもできるような形は、今後医師会で検討いただくことになると思います。

小島委員 丹波篠山市の市民は、あくまでもこの丹波篠山市内のPCR検査を実施している医療機関に行くということですか。丹波管内にもう一カ所あるところに行くこともできるのですか。

保健福祉部 当市内の医療機関については、軽症、あるいは中程度の症状の方となっており、もう1カ所の感染症指定病院については重症ということで、位置づけされています。丹波圏域の医療を守ること、そして重症化を防ぐため、こうしたシステムになっています。感染者の症状によって、判断されるものと考えます。

かんなん委員 感染者が出た場合、濃厚接触者などの調査をされると思いますが、その調査の主体は、どこになるのでしょうか。

保健福祉部 丹波圏域の場合は、丹波健康福祉事務所の健康管理課が担っています。濃厚接触者の定義に基づき、検査していく状況にあります。その際には、どこの医療機関でPCR検査を受けていただくかについても丹波健康福祉事務所の指導によって決められることとなります。市が行っている電話相談については、感染者、接触者への指導といった具体的な対応ではなく、一般的な不安や症状に対する何か心配ごと等への総合的なものになっています。

上田副座長 市医師会補助金と市歯科医師会補助金の2項目があります。PCR検査機器については、帰国者・接触者外来に導入するということでしたが、市医師会補助金について、帰国者接触者外来1カ所に対するものなのか、それともほかの市内医療機関も含まれているものなのか。

保健福祉部 空気清浄機は26台分用意しており、市医師会に加入されている医療機関26カ所分ということになります。オンライン会議につきましては、市、が整備し、医師会に使っていただくものとなります。防護服につきましては、市医師会への補助金ですので、その使用については、市医師会にお任せすることになります。スターボールシールド（鼻の粘膜、鼻咽腔のぬぐい液を採取する機器）は、帰国者接触者外来に設置するものです。この市医師会や市歯科医師会への補助金につきましては、市内の医療機関もコロナの影響で受診者が減少し、医療収入も落ちていると聞いています。医療機関への収入に対する支援も必要ではないかということで、両医師会の会長に相談をしました。しかしながら、収入の補填という支援についてはそれほど必要ではなく、医師会へ資材等の支援をお願いしたいということでした。こうした経過を踏まえ、協議し、今回の補正予算を提案させていただいています。コロナ対策は長期戦になると考えることから、今後もしっかりと協議しながら、対応していきたいと考えて

	います。
河南委員	今回の補正予算によって、市医師会の望む支援が一定満たしているのか、それとも予算制約上、見送ったものがあるのかお伺いしたいと思います。
保健福祉部	要望いただいた分については全て満たしている状況です。
前田委員	市医師会に加入されていない医療機関はどの程度あるのですか。
保健福祉部	2病院です。
森本議長	PCRの検査機器を導入するということですが、その検査能力はどの程度なのでしょう。
保健福祉部	この検査機器につきましては40分で判定が出るもので、1回に2検体できるものになります。医師の診察時間もありますので、1日何件ということはいえませんが、これまでより早く検査結果が出るようになります。
森本議長	行政検査は保険適用かと思いますが、会社員の方が無症状であることの証明を会社に出す必要があり、自費で検査を受けたいという方もいると聞きます。そうした方を診ることは可能なのでしょうか。
保健福祉部	行政検査は無料ですが、初診料等はかかってきます。今後、有料での積極的な検査につきましては、今後市内の医師会の中で受け入れていただける病院なり診療所が出てくる可能性はあるかと思いますが、現段階で断定はできません。
森本議長	都市部においては、軽症の感染者などは、自宅待機やあるいはホテルに滞在するということですが、丹波篠山市において、感染者出た場合はどのような対応になるのですか。
保健福祉部	現在、丹波管内の丹波健康福祉事務所では、一旦感染されますと入院という形になります。今後、軽症者については、ホテルや提携している療養所に促すこともあるかと思いますが、現段階では、入院していただく形になっています。聞くところによると軽症の方は、数日で退院され、自宅療養されていると聞いていますので、それぞれの状態に合わせて判断されると思います。自宅待機、自宅療養であるとかホテルで過ごしていただくような方が丹波管内にも出てくる可能性はあるかと思います。
森本議長	陰圧装置（ウイルスが外に漏れるのを防ぐ装置）、冷暖房装置はどこに設置する予定なのでしょう。
保健福祉部	いずれも発熱外来用のテントに設置します。
議案第59号 令和2年度丹波篠山市国民健康保険特別会計補正予算（第1号）	
■医療保険課より、補正予算書に基づき説明	

上田副座長	東雲診療所のトイレ改修に係る工事期間を教えてくださいと思います。
保健福祉部	東雲診療所のトイレの改修の工事期間についてはまだ把握できていませんが、改修工事期間は、隣にある支援センターのトイレを使用いただく予定です。
上田副座長	工事期間にほかのトイレが使えるということはいいですが、年配の利用者が多いことから、できるだけ早く工事にかかり、短い工事期間としていただきたいと思います。診療所の工事について、トイレ以外は網戸の設置のみとなっていますが、ほかの待合室などの部分も含め、実際に現場の意見を聞かれた上でのものなのかを説明ください。
保健福祉部	網戸の設置についてはそれぞれの診療所に確認をしながら、計上しております。東雲診療所は7カ所の設置になっています。診察室に1枚、検査室に1枚、待合室に2枚、所長室2枚、事務室2枚で考えております。後川は10カ所になっており、建設当初から全く網戸が設置されていないことから、全ての窓に設置をするということになります。また、展開窓やルーバー窓の特殊な窓になっていることから、網戸設置と加工費用が少し高額になっています。なお、診察室が1枚、そして処置室が1枚、待合室、ホールで4枚、事務室で1枚、トイレ1枚、ホールで2枚を予定しています。草山については、6ヶ所を予定しており、網戸がない出窓式の窓もあることから、上下レールの取り付けも必要になってきております。診察室で1枚、処置室で2枚、待合室で3枚となっています。診察室のみでなく待合室等の設置も考えております、診療所全体の空気の入替えが可能になり、密閉した空間を避けることができると考えております。
上田副座長	私も診療所を利用させていただきますが、待合室自体が3密を避けられない状態になっていると考えています。多いときには、小さい待合室に10人ほどが待っておられる状況です。もう少しこうした実態踏まえて、待合室についても検討いただき、次の展開に期待したいと思います。
保健福祉部	現状は、座席間の距離をとるような形で対応していきたいと考えておりますが、各診療所の状況を確認して行いたいと思います。
上田副座長	医療保険課が現場を見て、色々と検討いただきたいと思います。
河南委員	今回の空調の関係については、新型コロナウイルス感染症対応の交付金によって、思い切って整備するべきではなかったかと思いますが、補助金の対象にはならなかったのでしょうか。
保健福祉部	今回の補正については、一般会計からの繰り入れになっておりますが、全てコロナ対策の交付金になっています。

■社会福祉課課長より、補正予算書に基づき説明

<主な質疑応答等>

かんなん委員 新生児特別定額給付金について、令和2年4月28日から令和、3年3月31日までに出産したものと、いうことになっていますが、他市の例をみると、学年対象としているところもあります。3月31日生まれも4月1日生まれも同学年になるということで、4月1日までの出産としています。同学年の中でもらう人ともらえない人が出るのは、どうかという思いもあるのですが、どのように考えているのでしょうか。

保健福祉部 他市においても同様の取り組みをしていることは承知していますが、そうした運用の部分については、協議の上、進めていきたいと考えます。

かんなん委員 4月1日も含むという考え方も一理あると思いますので検討いただきたいと思います。

小島委員 対象となる人数についてはその時期からして母子手帳の交付枚数で把握できると思いますが、いかがでしょうか。

保健福祉部 出生される方のみならず、他市等から転入される方も含めて対象にしています。逆に転出されて対象にならない方があることも踏まえ、過去5カ年度の出生数平均に転入見込み者数を足して見込み者数を出しています。母子手帳の交付数については早急に把握していきたいと思います。なお、転入者も含むということにしておりますので、こうした人数については、若干、変動があると思いますが、見込みの人数内で収まってくると考えています。

小島委員 次世代育成支援対策事業に関し、子どもの食の応援事業について、この事業は、ある程度利用する団体等が決まっているのでしょうか。

保健福祉部 市内で減災・防災関係の活動をされている方が、食事の提供や安心安全な居場所、楽しく遊ぶ機会の提供、そしてニーズ調査全てを実施される予定で聞いております。

小島委員 難しいと思うこととして、子育て世代が抱える課題や悩み、各種支援に関するニーズ調査があります。こうしたことをしようとする、それなりの組織が必要かなと思いますが、そのあたりはいかがでしょうか。

保健福祉部 子どもが十分な食事を食べられなかったり、外に出られなくなって、ストレスを溜めていたりする状況に加えて、特に貧困家庭に関する課題が浮き彫りになってきたことから、それらを調査したいという意向も持たれています。食事を提供できる事業者の方との繋がりもあり、その事業者の方も前向きに検討されているということも聞いています。そういう繋がりが市民間事業者にいくつかあるということも踏まえ、この事業を効果的に進めてくれるのではないかと期待しています。

小島委員	以前からこうした子育て世代や福祉関係の取り組みをされている団体があり、興味を持たれる可能性があると考えています。特にニーズ調査については、悩みや不安を把握した上で、最終的にしっかりと対応できる状況まで持っていくことが重要であると思いますので、しっかりと進めていただくようお願いいたします。
保健福祉部	この事業については、ある団体の方からご意見をいただいたことを踏まえ、補助金制度として創設しようとするものであるとご理解いただきたいと思います。見込み団体としてはその団体と、別の団体がひとつとして、2団体分を計上しております。生活困窮世帯等への支援も含めて、アイデアを考えていただいております。こうした部分を民間主体で取り組んでいただければありがたいと思うと同時に、行政として支援していきたいと考えています。現在、子ども食堂に取り組んでいただいている団体については、コロナのこともあり、動いていない状況にあります。今回の事業によって、その方の持つネットワークを生かし、活動を広げていただきたいと思いますと思っています。
上田副座長	子ども食堂の取り組みについては、社会福祉協議会のささっこ食堂やおかのっ子広場、それとTCキッチン、草山地区の北っこり食堂と既に市内でいくつか取り組まれています。15万円の助成がありますが、関係者はほとんどボランティアのような状況で活動されてきています。現状としては、コロナウイルスの影響により、活動したくてもできないというような状況にあると思っています。こうしたことを踏まえると、今までの子ども食堂と今回のものは全く別なものなのか、それとも一緒に合わせて取り組むことができるのか、事業主旨や既存事業との整合性についての精査が必要ではないかと考えますので、見解をおたずねします。
保健福祉部	社会福祉協議会の子ども食堂に係る助成事業と、今回の補助金との棲み分けについては、子ども食堂に関しては、新型コロナによる孤食を前提とした事業ではなく、子どもの居場所づくりに重きが置かれており、放課後に家に親がいない間、場所を提供して遊び、またご飯を食べてもらうというように、交流という点を目的にされています。ただ、子ども食堂に関しては、ご指摘のように密集のような状態になってしまい、感染リスクがあるということから、現在活動されていない状態になっています。それに対して、今回の子どもの食の応援補助事業については、新型コロナウイルスの影響によって、通常の子ども食堂ができないという状況に対して、家族と一緒にご飯を食べられなかったり、栄養の豊富な食事をとれなかったりすることがありますので、新型コロナウイルスの感染防止に注意しながら、お弁当を配ったりするなど食事の提供に重点を置いている事業になります。そうした意味で子ども食堂とすみ分けを

している状況であります。通常の子ども食堂については、継続的实施を前提としていますが、この応援事業については、子ども食堂のように地域で根づいて続けていくことを必ずしも目的としていないことも両者の違いと考えています。子どもの食の応援事業には、居場所づくりも目的にしていますが、外出自粛によって、ストレスを抱えている中、施設の中に集めることは難しい状況ですので、十分配慮した形で、何か、公園等で遊んだりできるイベントの実施、遊びの場を提供できればと考えています。

上田副座長 子育て世帯が抱える課題や悩み等各種支援に関するニーズを調査する事業とありますが、これまで各自治会において民生委員・児童委員などが困りごとなどのニーズ把握をされています。今回の調査は、市内全域でされるのか、それともある程度地域を絞って、学区等を範囲として調査されるのかお聞きしたいと思います。市内全域を対象にすべきと考えますが、民生児童委員の役割の点も併せて教えていただきたいと思えます。

保健福祉部 ニーズ調査に関して、民生委員・児童委員の方との調査と被らないかということですが、民生委員・児童委員だけでは十分把握できない部分として、例えば、本当は生活が厳しくて、十分な食事も取れないといった状態があったとしても、そういったことは表に出したくない方もあると思えます。食事の提供および居場所づくりの事業を機会と捉えて、保護者の方や子どもの声を拾い上げていく形で調査を進めようと思われています。また別の違った形での調査結果が得られると期待しています。

上田副座長 ささっこ食堂やおかのっ子広場、TCキッチン、北っこり食堂が、この事業に参加することは可能なのでしょうか。

保健福祉部 市としては、弁当の提供に対して補助をしようという考え方に立っていますので、もし、子ども食堂に取り組みされている団体がお弁当を提供される場合には、社会福祉協議会の助成は対象外となりますので、こちらの補助金を使っただき助成しようと考えています。

上田副座長 民生委員・児童委員の活動状況も参考にし、意見聴取やアンケートを取られたほうがより今までのデータ蓄積の関係からもいいのではないかと感じています。今回の調査結果を踏まえ、どのように今後の事業に繋げていくかが重要であると考えています。今回のニーズ調査の結果については、市に提供されるものなのか、それとも団体等のデータとして今後の活動に活かされることになるのかを聞かせたいと思えます。

保健福祉部 ニーズ調査の結果については、市が補助金を出していますので、アン

ケート結果等については、市にデータを提供いただいて、今後の子育て施策につなげる形で取り組みを進めていきたいと思っています。

上田副座長

子どもの食の応援事業ということで、これまでとは異なる状況から起こってきたと理解します。また、コンビニ弁当を多く食べているのは、栄養バランスが心配されます。こうした改善は保護者に対する啓発も必要になってくると考えます。今回、具体的にどのように調査を進めていくかはわかりませんが、民生委員・児童委員の方が掴んでおられる課題とか状況も含めた中で調査事業をしていただくとともに、市内の地域によって状況は異なることから、地域を限定することなく、全市的に調査を行っていただきたいと思っています。実際にどのような目的を持ってされるのかということをきっちりとした事業計画書を出してやっていただきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

保健福祉部

その方は市防災士でもあります。また、福島県の被災された子どもさんを毎年サマーキャンプというような形で、丹波篠山市に招いて、活動されている中心人物であります。丹波市豪雨災害のときにはボランティアの中心におられた方でもあり、非常に行動力のある方でもあります。食の応援事業に係る事業計画についても、ぜひ取り組みたいというようなことをおっしゃっています。民生委員・児童委員さんとの連携について意識されていないかもしれませんが、やはり、要保護世帯に対する民生委員・児童委員の情報は確実にありますので、そういったところとの連携というのは、非常に重要で必要であると考えます。一方で、その方のネットワーク、情報集約の仕方というのは、やはりSNSや実際に活動されている場がポイントになっているようです。これまでから、子育て世帯の母親を中心とした若い世代の、要保護世帯だけでなく方も含めて、ターゲットとされています。民生委員さんの情報等が全てマッチするというわけではないですけども、要保護世帯の方についてはマッチングさせていたほうが効果的だとも考えます。活動地域については、全中学校区で考えておられることから、調査についても全市的なものになると考えています。

河南委員

この事業は、将来に渡って行われるのでしょうか。

保健福祉部

現状、今年度の単発的な事業と考えておりますが、やはり出来高といえますか、やっていただいた調査事業の内容も踏まえて、施策に展開していくこともあり得ると考えています。同様の事業の必要性がある場合には、来年度以降に継続的なものとして立ち上げていく可能性はあると考えています。

河南委員

十分検討していただいて、子ども食堂と二本立てでどっちつかずにならないような形にしていきたいと思っています。財政的な事情も十分踏

	まえて、市の方向性をきちっと定めて、取り組んでいただきたい。
森本議長	無料または安価での提供ということですが、この解釈について説明いただきたいと思います。
保健福祉部	食事を「無料または安価で栄養豊富な食事の提供」ということについては、一般的な広報もさせていただく中で、無料もしくは低額の自己負担額のほうが参加いただきやすいということで、こうした表現をしています。
森本議長	全市的な取り組みで展開する予定とのことですが、募集や食事の手配当も全て応募団体等に任せることになるのでしょうか。市域を考えた場合、補助金額 20 万円ではとても厳しいように思えます。担当部署としてどのように制度設計をしていこうと思われているのか確認しておきたいと思います。
保健福祉部	募集については、その方以外にも希望者があると聞いており、広報で募集等をさせていただきたいと考えております。
森本議長	この事業をしていただく方を公募するのですか。公募の意味するところをお願いしたいと思います。
保健福祉部	2 事業者分の予算措置をしておりますので、広報等で周知させていただきたいと思っております。
向井座長	障害者福祉費に関し、障害者総合支援法給付事業について、休校中に、放課後デイサービスを延長されたとのことですが、どの程度延長されたのかを教えてくださいたいと思います。
保健福祉部	放課後等デイサービスの内訳について、4 月については、対象の児童数が延べ 25 人と把握しています。5 月につきましては、延べ 30 人と把握しています。なお、この人数の中には新型コロナウイルス感染症の感染予防のために、通所することを自粛される方もありましたが、厚生労働省の通知により、自粛されている方でも事業所が電話等で健康管理や相談支援を行った分については、給付費に計上が可能となっており、その人数も含まれていますことを申し添えます。
向井座長	この延べ人数が、今回プラスになった数だと思っていいいのでしょうか。
保健福祉部	学校が開校時において、放課後に利用されている方が、今回の臨時休業に伴い、放課後のみでなく午前中から利用され、利用時間が増加となったケースがほとんどであり、この休業中に新たに利用者が増加したという訳ではありません。
向井座長	地域活動支援センター補助金について、工賃の原資である収支差額が減少した事業者に補助するとのことですが、どのくらいの事業者に支援をされるのか、また補助の程度も含めて教えてくださいたいと思います。
保健福祉部	地域活動支援センター事業者の状況について、地域活動支援センター

事業所は市内で 5 事業所、また精神系の事業所がありますが、事業所のよってそれぞれの状況が異なっています。聞き取りの中で、確認しているところでは、3 事業所が対象になると見込んでいます。計上している予算が、事業所の減収分になっております。

○市民生活部

■地域コミュニティ課より、補正予算書に基づき説明

<主な質疑応答等>

小島委員 公民館管理費に関し、体温測定サーマルカメラの設置について、体温を計測する職員が必要になるのでしょうか。

市民生活部 基本的に多目的ホールを使う主催者側で検温いただきます。

小島委員 実際に高熱の方が出た場合の対応はどうされるのでしょうか。

市民生活部 発熱の疑いがある方を安静にしておく部屋も同時に予約いただくよう案内する予定です。仮に市主催の事業であれば、看護師を用意し、診ていただくことになってお思います。

小島委員 これを設置することによってそうした作業が増えてくるとお思います。対処の方法はしっかりと決めていただきたいとお思います。

上田副座長 体温測定サーマルカメラについては、値段の幅が大きいように見受けられます。今回 104 万 2000 円のものを導入しようとする理由について教えていただきたいとお思います。

市民生活部 今回導入しようとするものについては、最大 20 人まで同時測定が可能です。それ以外の例えばタブレット型であれば、1 人ずつの計測となることから、500 人規模のホール利用者に対応することは難しいとお考えました。なお、実際の計測にあたっては、二つある入り口を一つのところに誘導した上で、サーマルカメラを設置・計測したいとお考えています。

上田副座長 交響ホールで導入しようとするものとの比較はされましたか。

市民生活部 調整し、交響ホールは同じものを 2 台導入する予定であることを確認しています。

■市民安全課より、補正予算書に基づき説明

<主な質疑応答等>

かんなん委員 防災事務費に関して、防護服やフェイスシールドの購入とありますが、避難する際にマスクをしていなくてもいいということですか。

市民生活部 避難いただく際には、身の回りの必需品や食料・飲料水などはご持参

いただき避難していただくようこれまでから周知しています。あくまでも忘れた方のために、マスクや消毒液も避難所に準備します。なお、フェイスシールドは避難所を運営する職員用のものです。

かんなん委員 避難所の感染防止は非常に大事なことだと思っています。簡易ベッドは、すべての避難所にそれぞれ配られることになるのですか。

市民生活部 防災用ベッドについては、現在 20 個を備蓄しており、今回のものを合わせると合計 130 個になりますが、避難所全てを開設しますと 1 カ所あたり 2 個ずつになります。被災の規模に応じて、6 カ所から 22 カ所、65 カ所と段階的に開設していきますので、それに依じてベッドを集約して使用したいと考えています。

かんなん委員 災害が発生したポイントに応じて、ベッドや間仕切りも移動する運用と考えていいのでしょうか。

市民生活部 被害の状況に応じて避難所開設等も含めて柔軟に対応していきたいと考えています。

■市民課より、補正予算書に基づき説明

質疑なし

(閉会)

上田副委員長 挨拶

閉会